能　面

【所　在　地】指宿市東方 733　揖宿神社
【種　　別】県指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】昭和 34 年 6 月 10 日

指宿市柳田小学校の近くのクスの大木が茂った森の中に揖宿神社がある。この面は，揖宿神社の宝物として伝えられているものであるが，その由緒，作者等は不明である。尉面（男の老人の顔），姫面（若い女の人の顔），狂言面（狂言というこっけいな劇に使う面）の三面で，室町時代中期の作とされている。このような古い能面が残っているのは珍しく，他に日光二荒山神社（栃木県日光市）に同類のものがあるといわれる。面の形状は，尉面は縦 21cm，幅 13.4cm，姫面は縦 18.4cm，幅 12.7cm，狂言面は縦 19.8cm，幅 13.4cm である。面の色はほとんどはがれ落ちているが，それだけに，かえって古い素朴な感じを伝えている。

なお，揖宿神社には，このほか江戸時代中期の銘のある尉面，王面，翁面，おみこし等が保存されている。

〈参考〉

●「能面」　「おもて」ともいわれる。使いかたによって，喜びも悲しみもうまくあらわせるようにつくられ，独特の表情をもっている。種類は，尉面，男面，女面，神仏面，鬼畜面に大別され，役の性格や年令，曲の必要に応じて種々ある。